

文章ばかりになって
しまいましたが、進
学を考える人は必ず
読みましょう。

霞 城 コ ン パ ス

進路情報 第18号 令和3年1月14日発行



前号で、在校生の皆さん、特に次年度卒業予定者の皆さんに対して、卒業年次になる前に就職か進学かの確定をしましょうという話をしました。まずは、進学が本当に可能かどうかの確認のために、進学に係る経費や生活費等の経済面の情報を提示しました。進学希望の人は保護者の方と話をしましたか？まだの人は早めに話をして確認しましょう。もちろん1回話をして終わりというわけではありません。進路希望を達成するまでの間は保護者の協力と理解がなくては思うようには進みません。担任ともしっかり相談し、前に進んでいきましょう。



経済面について保護者としっかり話が出来た人は、今の自分の経済的な条件が明確になったと思います。学費や生活費に関して特に大きな制限がないと分かった人は、あとは自分の進学の目的や必要な学力を確認しましょう。一方、経済面で制限がある人は、その金額に応じてシュミレーションをしてみる必要があります。〇〇円までなら出してもらえると分かったら、自分の志望校の学費・生活費が具体的にどれくらいかかるのか、足りない分を奨学金やアルバイト等でまかなえる金額なのか、具体的にシュミレーションしてみる必要があります。そうすることで、一人暮らしが可能か、学費がいくらくらいのところまでの学校なら可能かということが見えてきて、経済面での志望校の範囲が分かってきます。また、保護者からの金銭援助が全く、あるいは、ほとんどないと分かった人は、それでもどうしても進学したいのか自分の本気度を確認したうえで、かなり綿密な調査と計画を練らなければ進学は不可能です。

ここまで話をすると、卒業年次前に進学が可能かどうか確定することがなぜ大事なのが分かると思います。これを先延ばしにしている、卒業年次になって話が具体的になってきたときになって初めて、考えていた志望校の進学が無理だと分かったり、進学そのものが無理だと分かったりしたら、その先のモチベーションはどうなりますか？周りが具体的に進路希望に向かって具体的に活動している中、そのダメージは想像以上に大きいもので、そのショックから立ち直れなかったり、気持ちの切り替えがうまくいかなかったりして、崩れていく生徒を何人も見てきました。そうならないために、卒業年次になる前に自分の現実をしっかり直視しなければならないのです。これは実は就職希望でも同じことで、自分の現実の状況をしっかり把握しなければなりません。



今号では、進学の目的について触れたいと思います。

まず、何のために進学するのか。その問いに絶対的な正解はありません。なぜなら、進学する目的は人それぞれで違うし、何が正解とも言えないからです。純粋に「学びたい分野・学問があるから」や「就きたい仕事のために必要な資格を取るため」という人もいれば、大卒の方が「就職の幅が広がるから」という人もいでしょう。また、明確な就業目標をまだ定められず、それを定めるためにも進学して学びたい、成長したいという人も少なくないかもしれません。ただし、確実に言えることは、進学する目的は人それぞれであっても、「学ぶ」ために進学するのです。何のために何をどう学ぶかの違いはあっても、「学ぶ」ことに変わりはありません。だから、学ぶ気持ちのない人は進学しても意味がないし、第一続かないでしょう。進学希望の人はもう一度自分の「学ぶ意思」を確認しましょう。「学びたい」という意思があれば、今の自分の行動にもそれが表れているはずですよ。

大学・短大・看護医療系専門進学を希望し、高2・1コース実力養成講座にエントリーしているものの、数少ない外部模試にも出席できない、講習を休む、課題の提出を守れない、のいずれかに該当する人は、「学ぶ意思」があると言えるでしょうか。もう一度「進学」の根本を考え直してください。

大学に進学すれば何とかなるという時代はもうすでに終わりました。自分で考えて行動できない人、人の指示を理解できない人は、大学に進学したとしても卒業まで至らなかったり、卒業はできても就職できなかったりという人が現実には少なくないのです。厳しいことをあえて言うのは、あとで後悔してほしくないからです。

次号では、偏差値について説明します。